

法 学 号 外
平成 29 年 3 月 14 日

各私立高等学校設置者 }
各私立高等学校長 } 様

岩手県総務部法務学事課私学・情報公開課長

博士人材の学校教育現場での活躍事例のご紹介について
このことについて、別添のとおり通知がありましたので、お知らせします。

【担当】私学振興担当 中村

電話 019-629-5041 FAX019-629-5049

メールアドレス: AH0007@pref.iwate.jp

事務連絡

平成29年3月7日

各都道府県教育委員会
各指定都市教育委員会
各都道府県知事
附属の高等学校、中等教育学校及び
特別支援学校（高等部を置くものに
限る。）を置く各国立大学法人の長 殿
高等学校を設置する学校設置会社を所
轄する構造改革特別区域法第12条第
1項の認定を受けた各地方公共団体の長

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課

博士人材の学校教育現場での活躍事例のご紹介について（依頼）

日頃から、文部科学行政に御理解・御協力を賜りまして誠にありがとうございます。

文部科学省が所管する国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）においては、博士人材の社会の多様な場での活躍促進に向けて、「研究人材キャリア情報活用支援事業」（JREC-IN Portal：ジェイレックインポータル <https://jrecin.jst.go.jp/>）を実施しており、研究人材（博士課程学生、ポストドクター、研究者等）の多様なキャリアパスの開拓や能力開発を促進することを目的として、研究人材に対し、国公立大学や公的研究機関等の研究関連職、小中高等学校の教育関連職等のキャリア支援情報を多数掲載しています。

この度、JSTでは、博士号取得者の教員としての活躍事例を紹介するパンフレットを作成しました。詳細は同封のパンフレットのとおりですが、特別免許状の活用事例、教育委員会や学校長、博士号を取得している教員へのインタビューなどを紹介しています。

教員の採用等に当たっては、本パンフレットを御参照いただき、博士人材の積極的な活用を御検討いただけますようお願いいたします。

また、後日、JSTより本パンフレットを送付いたしますので、各都道府県教育委員会におかれは、所管の高等学校等及び域内の高等学校等を設置する市（指定都市を除く。）区町村教育委員会に対して、各指定都市教育委員会におかれは、所管の高等学校等に対して、各都道府県知事及び高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の長におかれは、所轄の高等学校等及び学校法人又は学校設置会社に対して、附属高等学校等を置く各国立大学法人の長におかれは、設置する附属高等学校等に対し、周知及び送付をお願いいたします。



問い合わせ先

【博士人材の活躍促進に係る国の取組について】

文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課

担当：伊藤、前橋

電話：03-6734-4051

E-mail：kiban@mext.go.jp

【JREC-IN Portal 及びパンフレットについて】

科学技術振興機構 知識基盤情報部 人材情報グループ

担当：川井、大金

電話：03-5214-8456

E-mail：jrecinportal@jst.go.jp

教育の最前線に立つ博士人材

FIELD REPORT FROM ODATE HOMEI HIGH SCHOOL

「博士の経験を活かして、
生徒たちの能力を伸ばしたい」

秋田県立大館鳳鳴高等学校

肥田 宗友氏 博士(理学)

博士人材の教員採用を積極的に進めている秋田県において、平成20年度に採用された肥田宗友氏。現在は、秋田県立大館鳳鳴高等学校で、理科の教科主任、理数科の学科主任、そして進路指導の副主任として活躍されています。生徒たちの人生に関わるこの仕事に、博士人材ならではのアプローチと情熱を持って取り組んでいる肥田先生と校長の立石先生、秋田教育庁へお話をうかがいました。(平成28年8月取材)

社会人特別選考による博士教員の採用

秋田県では平成19年度より公立学校教諭の採用候補者選考試験において博士号保有者を対象とした社会人特別選考を実施している。さらに、特別免許状制度を活用することで、教員免許(普通免許状)を持たない博士号保有者の応募・採用も可能とし、博士号保有者の新たな人材活用方法またはキャリアパスとして注目を集めている。

教育職員特別免許状

○特別免許状とは

専門的な知識経験又は技能を有する社会人等を教員として登用するため、昭和63年の教育職員免許法改正により制度化され、大学での教員養成教育(教職課程)を受けていない者でも都道府県教育委員会が行う教育職員検定により授与できる免許状。

○特別免許状と普通免許状の違い

特別免許状は、授与した都道府県のみで有効となる。しかし、普通免許状と同様に小中高等学校、特別支援教育の全教科が対象で、職務内容も普通免許状を持つ教員と変わりなく、教科指導のみならず、学級担任やクラブ活動、生徒会指導等も担当することができる。(但し、特別免許状は小学校や特別支援学校であっても教科についての取得となる。)また、3年以上の在職年数と所定の単位の取得により、普通免許状を取得することができる。

「博士の経験を活かして、生徒たちの能力を伸ばしたい」

Q:高校の教員というキャリアを選んだのはなぜですか？

大学で素晴らしい師と出会ったことで、教員という職業に興味は持っていました。ただ、それ以上に研究が面白くて、教員免許は取得したものの、日本学術振興会の特別研究員や製薬会社の社員として研究を続けていました。

大きな契機になったのは、子どもの誕生でした。超低出生体重児として生まれてきた我が子を見て、今の自分は直接この子の命を助けることもできないし、教育に携わることもできないと、歯がゆさを覚えたんです。そんなタイミングで秋田県で博士号教員を採用するという新聞記事を見つけて、これだ！と。それが応募のきっかけでした。



秋田県立大館鳳鳴高等学校 肥田 宗友 氏 博士(理学)

Q:教員になってみていかがですか？

着任してすぐに、周りの先生方がとても真摯に生徒たちに向き合っていることを知って、それまで抱いていた教員のイメージが大きく変わりました。同時に、生徒の人生に向き合う責任の重大さを感じ、大きなプレッシャーになったのを覚えています。

教員の仕事は、生徒の変化も見て取れるのがとても面白いですね。彼らはひとつの言葉だけで変わりますから。20年後、30年後の姿を見るのが楽しみです。教員なので、専門分野の研究だけに没頭するわけにはいきませんが、今は教育を研究していると言えるかもしれませんね。

Q:博士の経験が活かしていると思われる点がありますか？

専門性は当然生かせるとして、博士の経験を通して、何事においても「なぜか」を考える習慣が身につけている点は強みだと思います。ゴールありきで決まった方法をなぞるのではなく、成果を得るために主体的に考えることの大切さを、自分の経験に基づいて教えられる。生徒たちの問題解決力や論理的思考力、主体性といった能力を伸ばすためには、博士号取得者の能力や経験はとても役に立つと思います。

Q:教職を視野に入れている博士にアドバイスをお願いします。

合うか合わないかは経験してみないとわからないところがありますから、経験者の話を聞いたり、常にアンテナを張って情報収集をすべきだと思います。この仕事で一番重要なのは情熱です。生徒たちは私たちが思っている以上に教員のことを見ていますから、口先だけではついてきてくれません。私も常々、生徒たちの見本になれるように、人間力を磨き続けなければいけないと思っています。

教え子の声

「生徒一人ひとりのことをじっくりと見てくれる先生でした」



秋田大学医学部医学科 太田 真由 氏

肥田先生は私が大館鳳鳴高等学校の2、3年時の副担任で、生物の授業と、進路指導でもお世話になりました。最初は、辛辣なことも言うし、博士号を持っている先生ということで、近寄りがたいのかな、と思っていたのですが、実際は、どの先生よりも生徒一人ひとりのことをじっくりと見てくれる先生でした。

授業では、教科書には載っていない最新の科学の話をしてくれたのが印象に残っています。高校時代に専門的な知識に触れたのは、とてもよい経験でした。進路についても、女性医師のキャリアについてや、大学で学べることを、ご自身の経験に基づく具体的なアドバイスで、医学部への進学を明確に決めることができました。

勤務先の声

「研究の場で培った姿勢を背景に、学術的な柱になってほしい」

Q:大館鳳鳴高等学校の教育についてお聞かせください。

当校では、将来、グローバルに活躍する人材の育成、そして地域社会を支える人材の育成というふたつの柱を教育ビジョンとして掲げています。特にSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)の指定を受けてから、生徒たちが主体となって調査や実験を行い、発表する課題研究に対する意識は大きく変化しており、文系理系問わず課題研究への取り組みを強めているところです。

Q:博士人材が採用されると聞いたときにはどう思われましたか？

正直なところ、最初はどんな仕事を願えばよいのか戸惑った部分はあります。博士人材が研究してきた分野が、高校の授業に直接的に役立つのだろうか、という気持ちが強かったですね。

しかし、肥田先生の働きぶりを見てその戸惑いは払拭されました。課題研究に関しても、私たちはつい結論ありきで実験や調査を進めてしまいがちなのですが、肥田先生にはそれがない。基本的な研究に対する姿勢を理解されているからなのでしょうね。進路指導に関しても、データ分析をもとに説得力のある指導をしてくれる。それも、研究の場で長年培ってきた姿勢が背景にあるのだと思います。



秋田県立大館鳳鳴高等学校 校長 立石 隆博 氏

Q:今後、教育現場で博士人材に望まれるのはどんなことでしょうか？

学校というのはいろいろな人がいて成り立つ現場です。そのなかで、博士号を持つ先生方には、その専門性を活かして学術的な柱になっていただきたいですね。一方で、専門にこだわるあまり一匹狼的な存在になってしまうのもいけない。学校という組織を理解して、順応できる人材であってほしいと思います。

採用機関の声

「日本の理系教育が世界で活躍できる人材を育成するために」

Q:博士人材の積極採用の背景についてお聞かせください。

まず、近年、大学入試センター試験で本県の理数系科目の低迷が見られた点。それから、地場産業振興のための、地域に根ざした人材育成。これらの課題を解決するために、優れた人材の専門性を教育の現場で活かそうということで、平成20年度から博士人材の採用が始まりました。教員免許がなくても教員として勤務できる「特別免許状制度」を活用しているのも、ひとつの特徴だと思います。

Q:今後、博士人材にはどのような役割を期待されていますか？

まずは授業の場で生徒たちのスキルを高めていただくこと。生徒たちにとっては、普通に大学に進学するのと、博士の先生方から指導を受けてから進学するのでは、明らかに意識が変わってきます。これは、日本の理系教育が世界で活躍できる人材を育成するために、とても大事なことだと考えています。

現在、博士の先生方は、地域を巻き込んだり、他の学校や、大学、研究機関との連携に主体的に取り組むなど、我々の想像以上の活躍を見せてくれています。これからも、学校、地域、地域の中心でリーダーシップを発揮していただきたいと思っています。

Q:博士人材を採用したことでどのような変化がありましたか？

秋田県には高校生が応募できる民間の研究助成制度がありますが、博士人材の所属する学校の科学部から、助成金の応募が飛躍的に増えました。また、博士人材による出張授業も大きな成果を上げています。小学校から高校まで、要請のあった学校に博士人材の先生方が出向き、専門性を活かした授業を通して、子どもたちの理科に対する興味を醸成するというのがこの施策の目的です。平成27年度には計38回の出張実績を残しています。

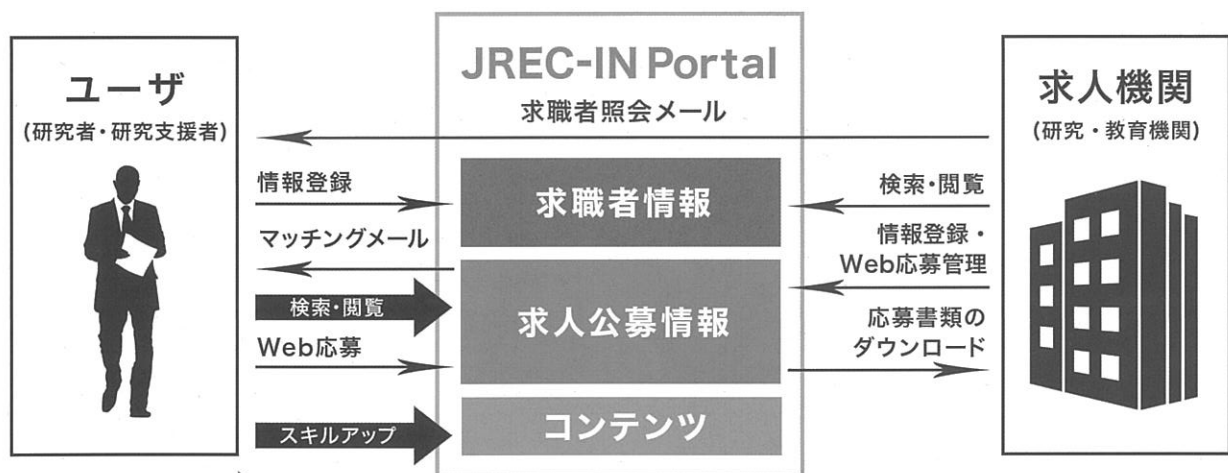


秋田県教育庁 高校教育課 指導班 主任指導主事 藤澤 修 氏(右)
指導主事 能美 佳央 氏(左)

年間アクセス数1800万超の研究人材向けキャリア支援ポータルサイト

- JREC-IN Portalは、研究者・研究支援者・技術者等の研究人材のキャリア形成・能力開発を情報面から支援する研究人材のためのポータルサイトです。
- 研究に関する職を希望する求職者の情報と、産学官の研究・教育に関する求人公募情報をそれぞれ収集・データベース化して、インターネットを通じて求職者、求人機関双方がそれぞれのニーズに応じた内容を検索・閲覧頂くことが可能です。
- 研究人材の多様なキャリアパスの開拓と教育研究機関等における人材活用につながるイベント情報やコンテンツ等を提供しています。
- 登録利用者は、求人公募情報の掲載・閲覧・Web応募や求職者照会メール、マッチングメールなど求人求職活動を支援するサービスや、キャリア形成・能力開発に役立つe-learningをご利用いただけます。(ご利用いただけるサービス・機能は利用者種別によって異なります。)

求職者と求人機関の情報マッチングを支援

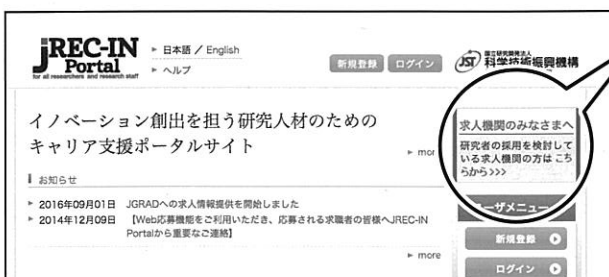


※本事業における求人・求職に係わる支援は情報提供を行うものであり、斡旋を行うものではありません。

登録求人機関向けの充実サポート機能

- 求人公募情報の登録・掲載
- Web応募管理
- 求職者情報(匿名)の検索・閲覧
- 求職者照会メールの送付等

JREC-IN Portalサイトでの登録方法



ここから登録

採用を検討している機関の方はこちらより「求人機関登録」を行った後、ログインして「求人公募情報登録」、「Web応募管理」等のサービスをご利用ください。

お問い合わせ先

JST サービス支援センター
(JREC-IN Portal 担当)
E-mail:jrecinportal@jst.go.jp

発行者：
国立研究開発法人
科学技術振興機構(JST)



JREC-IN Portal

検索